

## ◆ クヌギ林とため池がつなぐ農林水産循環

元々国東半島や宇佐地域は降水量が少ないため、水田による稲作は難しい地域であった。しかし、先人の知恵と努力によって、一つの河川流域に数多くのため池群がつくられ、

それらによって、国東半島宇佐地域の雨水はゆっくりと循環するようになった。

また、水田とセット化された“里山林”、なかでもシイタケ栽培の原木に活用される落葉広葉樹のクヌギ林は、森林土壌のミネラル豊富な水を涵養する。

それらの水や雨水は、それぞれのため池に注がれ、一時的にストックされながらも、ゆっくりと“里海”まで流れていく。

…このような“栄養豊富な水循環のシステム”が、千年の歴史のなかで次第に形成されていった。

このクヌギ林・ため池群による“栄養豊富な水循環システム”は、水稻をはじめ、同じように多くの水を使うシチトウイ（現在では、全国で国東半島の8軒のみの農家が栽培）、さらに、シロネギや原木シイタケなどの個性豊かな農林産物を育み、この地の多様な自然環境と相まって、上流域から里海までの豊かな生物多様性を保全してきた。

例えば、この“循環システム”は上流域にすむ国の特別天然記念物オオサンショウウオや、大分県で発見され沼などにすむ絶滅危惧種のオオイタサンショウウオを育んだ。

さらに、河口域にすむ“生きている化石”カブトガニを育んだ。そして、同時に“里海”にすむ城下カレイ、豊後別府湾チリメン、岬ガザミなどの豊かな水産物も育んできた。

…だからこそ、『国東半島宇佐地域世界農業遺産』の<メイン・コンセプト>は、

「クヌギ林とため池がつなぐ農林水産循環」なのだ。

そのイメージは、【図4】に示すとおりである。



図4: 国東の世界農業遺産 メイン・コンセプトのイメージ